

IX 研究の全体計画

1 研究主題 主体的に学び、考えを深めていく子どもの育成

2 主題設定の理由

(1) 今日的な課題から

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が加速度的に進展するようになってきている。これらの変化は、どのような職業や人生を選択するかに関わらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものとなっている。そのため、子どもたち一人一人が、予測できない変化に主体的に関わり合い、自らの可能性を発揮し、より良い社会や人生を実現する力を身に付けられるようにすることが重要である。

また、学習指導要領では、「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」という三つの柱で構成された資質・能力の育成を目指すこと、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることなどが記されている。

(2) 学校教育目標の具現化から

【本校の学校教育目標】

心身ともに健康で、共にみがき合い、共に伸びていく子どもの育成

本校では、上記の教育目標のもと、未来に向かって大きな夢と希望をもって、自分のもち味を遺憾なく発揮し、生き生きと活動できる「かしこい子、やさしい子、たくましい子、はたらく子、佐原が大好きな子」を育て、“希望の登校、満足の下校”佐原笑楽校を目指している。つまり、社会の一員という自覚をもって心豊かにたくましく生き、様々な困難にぶつかったときでも、自ら考え解決していける児童、母校を思いふるさとを愛する児童の育成をねらいとしている。そのためには、自らの課題を主体的に考え、自分なりの考え方をもち、それを広げたり深めたりして自己実現していく力が求められる。実生活と関わりのある学びを通じ、学んだことを生活や学習につなげ、考えを深める学びを創造していくことは、本校教育目標の具現化の大きな柱であると考ええる。

(3) 本校の児童の実態から

児童数は 686 名で学級数 29 (特 6) であり、児童は明るく元気で、素直である。昨年度から算数科と特別支援教育を基盤として「主体的に学び、考えを深めていく子どもの育成」を主題に取り組んできた。

算数科における近年の児童の実態は、千葉県標準学力検査において、主体的に取り組む態度に関して肯定的に回答していた児童は、どの学年も県平均を上回る高い数値を示している。しかしながら「知識・技能」「思考・判断・表現」に関しては、県平均もしくは、やや下回る結果となっている。そこで昨年度の研究においては、自らの問いに対して進んで解決をしたり、学んだことを生活や学習に活用したりすることができるように取り組んできた。さらに児童が自分事として問題解決できるような日常生活の場面を設定したり、学んだことが日常生活にどう生かされているかを意識付けたりすることで児童の主体的な学びにつなげ、授業改善を進めてきた。

また、本校の特別支援教育における実態としては、特別支援学級及び通級で学習する児童の発達段階が様々で、学習面、生活面共に個人差が大きいことがあげられる。そこで昨年度の研究では、発達段階に応じて目指す姿を整理し、理解を促す学習活動及び学びの場の工夫をしたことで、児童自身が見通しをもつことができ、主体的に活動することの重要

性について明らかにした。

しかしながら、算数科では自分の考えを表現しようとするものの、学びの深まりには個人差がみられる。また、特別支援教育では自立・社会参加に必要な相手意識をもって関わっている児童が少ない。

そこで、今年度研究を進めるにあたり、算数科では「数学的な見方・考え方」を働かせ自分の考えを表現し、特別支援教育では相手意識をもって他の人と関わっていくことで、主体的に学び、考えを深めていく子どもの育成につながると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

- 問題解決の過程で「数学的な見方・考え方」を働かせるよう意識付けることで、主体的に多様な考えを出し合い、問題を解決し、学びを深める子どもの在り方について、授業実践を通して明らかにする。 [算数科]
- 一人一人の特性や実態を踏まえ、自立活動の6つの柱を軸として、自立や社会参加に必要な資質・能力を身に付けることができるような支援・指導方法の在り方について、授業実践を通して明らかにする。 [特別支援教育]

4 めざす子ども像

- 自ら課題を見つけ、主体的に追究していく子 【かしこい子】
- 自分の思いや考えを、適切に表現できる子 【かしこい子】
- 他者との協働活動の楽しさや喜びを実感できる子 【かしこい子・やさしい子】
- より良い生き方を探り、進んで努力していく子 【たくましい子・はたらく子】
- 母校を思い、ふるさとを愛する子 【佐原が大好きな子】

5 研究仮説

- [算数科]
問題解決の過程において、「数学的な見方・考え方」を働かせることができるような数学的活動を行えば、児童は主体的に多様な考えを出し合い問題を解決し、学びを深めることができるであろう。
- [特別支援教育]
学習場面において自立活動の6つの内容から必要な区分・項目を選定し、それらを相互に関連付ければ、共に関わり合いながら自立や社会参加に必要な資質・能力を身に付けることができるであろう。

6 研究の内容

(1) 研究目標に対する基本的な考え方の理論研究

(2) 算数科、特別支援教育についての理論研究

[算数科]

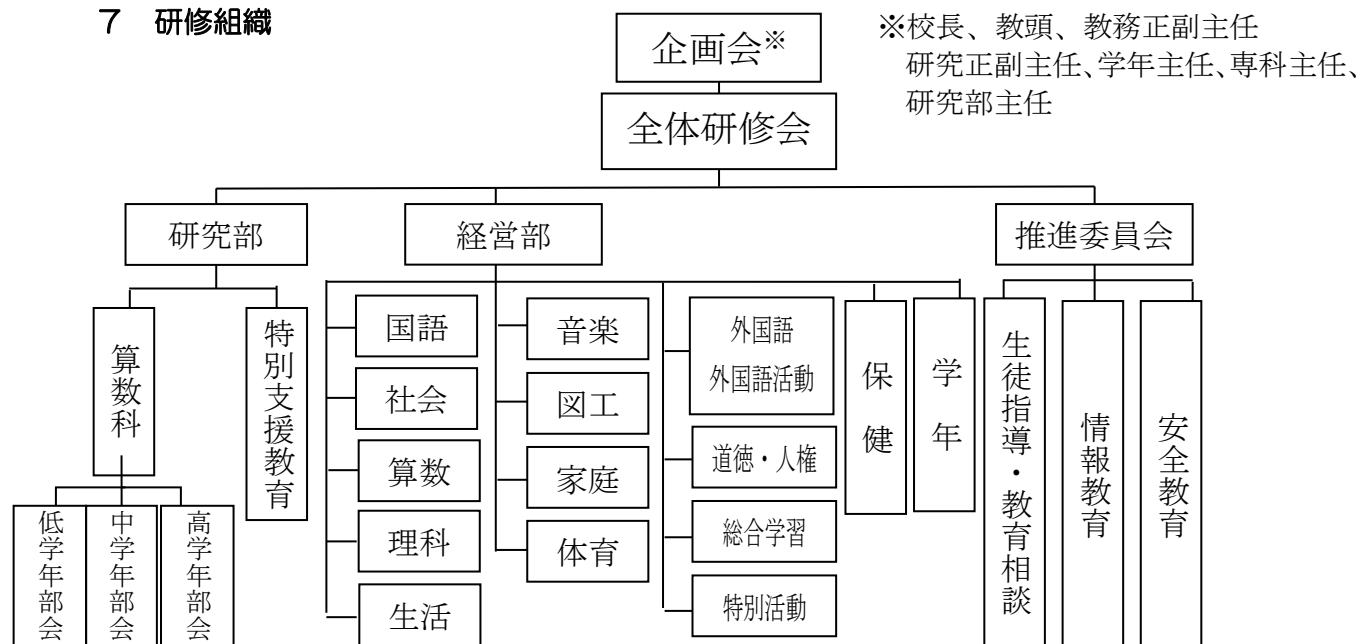
- ・「数学的な見方・考え方」とは
- ・「数学的な見方・考え方」を意識付けた数学的活動とは
- ・児童の変容の見取りについて
- ・日常生活と関連付けた問題解決について（継続）

[特別支援教育]

- ・個々の実態把握と個別の支援・指導計画の見直し
- ・自立活動フローシートの作成について

- ・児童の変容の見取りについて
 - ・特性が異なる児童同士の小集団作りについて
- (3) 仮説に基づいた授業実践・分析・考察

7 研修組織



8 研修計画 (研究含む)

月	日	曜日	研 修 内 容
4	2	火	学年研修 階段昇降機講習会
	3	水	学年研修
	4	木	保健研修 (アレルギー対応研修)
	11	木	経営部会・推進委員会 (経営方針、年間指導計画等の立案)
	18	木	学年研修
	25	木	個人研修 (家庭確認等)
5	2	木	研究企画会
	9	木	学年研修
	16	木	全体研修 (今年度の研究の共通理解、授業者の検討)
	23	木	学年研修
	30	木	全体研修 (心肺蘇生法講習会)
6	6	木	部会研修
	13	木	部会研修 指導案検討①・教材研究
	20	木	部会研修 指導案検討②・教材研究
	27	木	学年研修
7	4	木	全体研修会 (第1回校内研究会について)・授業準備
	8	月	スキルアップ研修
	10	水	第1回校内研究会 (算数科) ※2日 (火) 指導案発送
	11	木	個人研修
	18	木	部会研修 指導案検討①・教材研究
	19	金	経営部会 (備品整理)
	22	月	職員作業
8			夏季休業中1回※部会研修 指導案検討②・教材研究
9	2	月	学年研修 作品処理

	5	木	部会研修 指導案検討③・教材研究
	9	月	スキルアップ研修
	12	木	全体研修会（第2回・3回校内研究会について）
	19	木	授業準備
	20	金	第2回校内研究会（算数科） ※12日（木）指導案発送
	24	火	第3回校内研究会（特別支援） ※13日（金）指導案発送
	26	木	学年研修
10	3	木	個人研修
	10	木	個人研修
	17	木	学年研修
	24	木	学年研修
	31	木	学年研修
11	7	木	部会研修 指導案検討①・研究のまとめ
	14	木	部会研修 指導案検討②・研究のまとめ
	21	木	学年研修
	28	木	部会研修 指導案検討③・研究のまとめ
12	5	木	個人研修
	12	木	教育課程①
	16	月	職員会議後全体研修会（第4回校内研究会について）
	20	金	第3回校内研究会（算数科） ※12日（木）指導案発送
	19	木	学年研修
			冬休みに研究のまとめを作成
1	9	木	個人研修
	14	火	スキルアップ研修
	16	木	個人研修
	23	木	教育課程②
	30	木	学年研修
2	6	木	入学前保護者説明会
	10	月	スキルアップ研修
	13	木	経営部会・推進委員会
	20	木	研究企画会
	21	金	教育課程③
	27	木	学年研修
3	6	木	個人研修（年間指導計画の見直し）
	13	木	個人研修
	25	火	備品整理